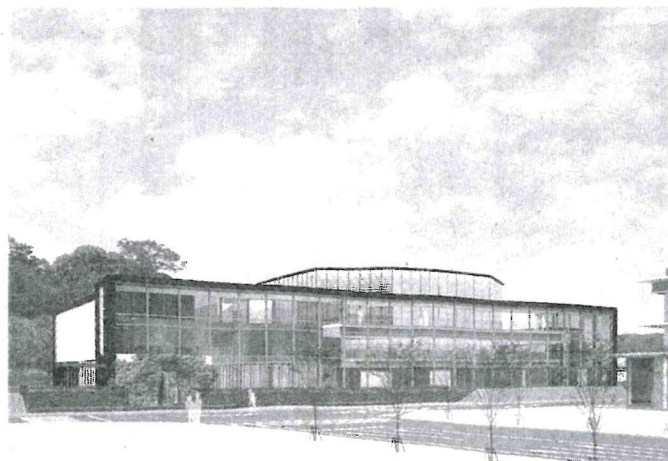


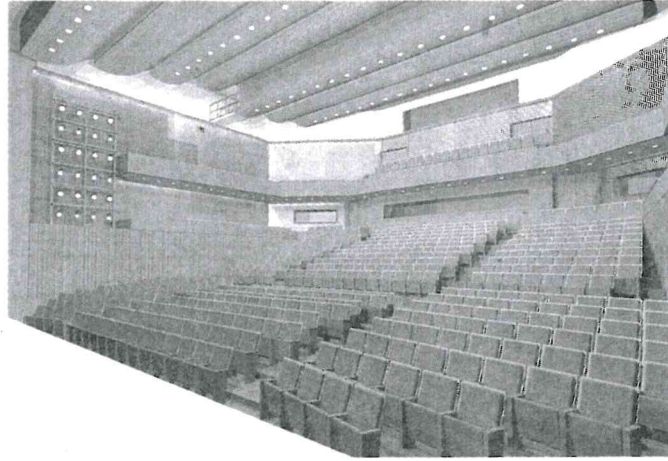
# 野口遵記念館 延岡市基本設計を示す 2/9 29日まで意見を募集

2022年の開館を目指して整備を進めている「野口遵（したがう）記念館（延岡市東本小路）」について、市は8日、基本設計案を明らかにした。市民に長く愛されてきた野口記念館を継承し、音楽を中心としたホールや多目的に活用できるフリースペース、旭化成初代社長の野口遵の人間像などを伝えるギャラリーを配置するなど、可能な限り機能確保に努めた。29日まで市民の意見を募る。

基本設計案の概要によ一館の建物は約1万4300平方メートル、床面積約4200平方メートル、一部鉄骨造り・地上4階建てを建設。建物の西側



野口遵記念館の外観イメージ図



野口遵記念館のホールイメージ図

などを中心に約2800台を収容することができ、駐車場を整備する。音楽を主目的とする明るく上品な空間を目指すホールは、壁面全面に音を拡散させ豊かな音響をつくり出す木ルーバーを設置するなど音響効果を高める工夫を施すほか、市民の文化芸術活動や巡回公演などにも柔軟かつ効果的に対応できる舞台機能も実現する。客席数は671席（1

階508席、2階バルコニー84席、3階バルコニー79席。舞台は間口8間（約14・56メートル）と奥行6間（約10・92メートル）の主舞台と袖舞台（上手袖、下手袖）を配置するとともに、プロセニウム（額縁）は可動式で高さが変えられるなど各種公演に対応する。可動式音響反射板も設置する。フリースペースや練習室は、各種イベントや多目的な市民活動、会議、特別企画展、簡易で小規模な舞台芸術や音楽公演をはじめ、ホールで行われる公演のリハーサル室や大楽屋としての利用など、さまざまなジャンルのイベントが開催可能な空間とする。

また、館内にはアクセス向上のため、ホールを取り囲むように「野口遵どおり」「かせどおり」「おおせどおり」の廊下を配置。来館者の目の触れやすい場所に野口遵翁顕彰ギャラリーを配し、延岡が工業都市として発展していく黎明（れいめい）期の姿や、野口の人像などを紹介する。同記念館は、野口記念館（6月閉館）が築64年を経て老朽化したため、旭化成から30億円の寄付を受け、市が建て替え整備を進めている。これまでに、基本構想・基本計画に基づき、市民ワークショップで市民の意見や要望を聞きながら基本設計作業が行われていた。

基本設計案の資料は、市教育委員会野口遵記念館建設室（市役所南別館）や情報公開センター（市役所2階）、総合支所の市民サービス課、市立図書館、各コミュニティセンター、市ホームページで閲覧できる。意見の提出方法は、住所、名前、基本設計案への意見であることを記載し、野口遵記念館建設室に提出するか、郵送（〒882-0822延岡市南町2丁目1番地8）、ファクス（0982・3404008）、メール（noguchi-k@city.nobeoka.miyazaki.jp）。問い合わせは同建設室（☎延岡20・55555）。